

東日本支部 夏のリコチャレ 2023

「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いしおか」 開催報告

東日本支部では、茨城県石岡市・(一社)茨城県建設業協会建女ひばり会・(一財)建設業振興基金と共催で、リコチャレ参画イベント「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いしおか」を開催しました。

■ 開催概要

- 開催日 2023年8月9日(水) 13:30~17:00
- 場所 点検する橋：茨城県石岡市「小屋側道橋」
現場見学：(仮称)上曾トンネル工事
講習会など：茨城県石岡市中央公民館
- 参加人数 子ども10名(小四5、小五2、中一1、中二2)、保護者10名(内2スタッフ)
スタッフ30名：正会員8、石岡市4、建女ひばり会13(内1正会員)、
茨城県土木部5(内2正会員)、国土交通省常陸河川国道事務所2、大学院生1
建設業振興基金4名 計52名
- 内容：
 - 13:30 イベント開始、挨拶
 - 13:35 1時間目 橋の講習会
橋のひみつ、橋のペーパークラフトによる橋の仕組み説明、インフラメンテナンスについて、点検対象橋梁の説明、簡易橋梁点検チェックシートの記入の仕方について
 - 14:20 (仮称)上曾トンネル工事について
 - 14:45 バスで移動
 - 15:00 2時間目 橋の点検チャレンジ
石岡市道「小屋側道橋」
 - 15:45 バスで移動
 - 16:00 3時間目 工事現場見学
「(仮称)上曾トンネル」工事
※協力 大林・株木・市村JV
 - 16:45 バスで移動
 - 17:00 ホームルーム(まとめ)、解散



中田支部長挨拶

■ 当日の状況

1時間目、橋の講習会では、やや緊張した面持ちの参加者でしたが、橋の模型(ペーパークラフト)を使ってスタッフが説明していくと興味深そうに模型を触ったり物を載せたりして、徐々に橋に親しみを抱いていき、参加者どうしで打ち解けていく様子も伝わってきました。



ペーパークラフトで橋に興味津々



小屋側道橋上で、スタッフが点検の仕方を説明

2 時間目は石岡市のバスで 10 分ほどの市道「小屋側道橋」に移動。ここでは進行を全て建女ひばり会にご担当いただきました。参加者は 2 班に分かれ、子どもと保護者のペアで「簡易橋梁点検チェックシート」を用いて、高欄・地覆・排水桝・舗装・伸縮装置といったパーツごとに、橋の隅々までよく点検し、会話しながら各自のシートに記入していきました。みな、口々に疑問や感想を吐きながら熱心に橋を点検し、ドボジョ達がそれに答え、またドボジョ達の問いかけに参加者達が答える、といったまさに「ドボジョと橋を見る」が小屋側道橋の上で実現した形となりました。

建女ひばり会では現地調査を含め事前に何度も打合せを行い、橋の点検のみならず交通誘導や熱中症対策など万全の準備を進めてくださいました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



伸縮装置の状態は、実際に触ってチェック



「ドボジョと橋を見る」の構図

再びバスで 10 分ほど移動し、3 時間目は（仮称）上曾トンネルの工事現場を見学しました。長さ約 3.5km の NATM 工法による道路トンネルで、5 月 9 日に貫通を迎えたばかりです。石岡市側の工区を担当している大林 JV のご協力のもと、坑内全長をバスでゆっくりと進みました。路盤工事は未成なので上下に揺れるバスの中で、参加者達はトンネルを掘るというスケールの大きさに興奮しつつ 2 年後の完成に思いを馳せていました。途中バスから降りて覆工コンクリート打設前の防水シート上にマジックでお絵描きするというイベントもありました。



思い思いのイラストやメッセージ描きに夢中

■ おわりに

「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いしおか」は、東日本支部が沼田イベントリーダーのもと、石岡市・建女ひばり会と連携して取り組んできた 3 年越しのイベントです。2021 年はコロナのためオンラインに変更、2022 年はコロナで 9 月に変更後、台風で中止となり、万全を期して臨んだ 3 年

目によろやくリアル開催が叶いました。日本大学工学部で展開されている「橋のセルフメンテナンスふくしまモデル」を参考として、夏のリコチャレを活用して石岡市の橋梁を子ども達と点検しようという意気込みで始まったものですが、イベントを通じて、子どもと保護者の皆さまに、身近な橋を住民が点検することの意味を少しでも伝えられたのではないかとの手応えを感じました。

イベント終了後石岡駅近傍にて、石岡市・建女ひばり会の皆さまと打上げを行い、これまでの挑戦を振り返りつつ3年越しの無事開催を祝い、今後も継続していきましょうとの思いを共にしました。



石岡市中央公民館の前で、出発前の集合写真

報告：小林千佳（東日本支部）

■ アンケート結果

リコチャレ終了後に、子ども達と保護者を対象に記述式のアンケートを実施しました。

子ども達には、授業で印象に残ったことや授業の感想についての質問を用意しました。その結果、屋外での授業が特に印象的で、橋の点検やトンネル見学が楽しかったという回答が多く寄せられました。特に橋の点検では、パーツの多さに驚いたとの声や、パーツの名前を知ることができて良かったという声もありました。また、ドボジョ先生から教えてもらったことに対する肯定的な意見も多く見受けられました。トンネル見学に関しては、防水シートにお絵描きをしたことや未舗装の道を通ったことが印象に残り、新たな景色や経験に大いに満足されたようです。

保護者向けのアンケートでは、子どもの様子と授業内容、また最近、「土木」についての感じることについて質問を行いました。こちらでも、屋外での授業が楽しそうだったという声が多く寄せられ、橋の点検では親子で協力して点検を行ったことで、保護者自身も橋に対する理解が深まったという意見がありました。さらに、「インフラメンテナンスの重要性を広めてほしい」といった要望や、「日常の当たり前が土木技術者によって支えられていることをもっと知ってほしい」という声も寄せられました。私たちとしても、このリコチャレイベントを通じて市民交流が実現し、実際の声を聞くことができたことは大変意義深いものでした。今後もこのようなイベントを通じてより多くの方々に「土木」に興味を持っていただけることを願っています。

報告：米田 咲（東日本支部）